



富山県における春まき夏どりタマネギ作型の開発

～富山県産 夏の新たなタマネギを食卓へ～

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所

1. 背景とねらい

富山県におけるタマネギ栽培は秋まき作型となっています。しかし定植時の天候不順で適期内の機械定植が困難な状況であり、生育は冬季の低温と積雪が大きく影響し、生産の不安定要素となっています。そこで本圃で越冬しない春まき夏どり栽培の可能性について、秋まき用品種と春まき用品種を供試して検討した結果について紹介します。

2. 成果の概要

(1) 春まき夏どり作型の可能性

- ・1月に播種し、4月に定植したところ、1球重が300g前後のタマネギが収穫できた(図1)。
- ・マルチの有無および種類をみると、黒マルチで球重が確保できたとともに、可販収量や品質も確保できた(図2)。

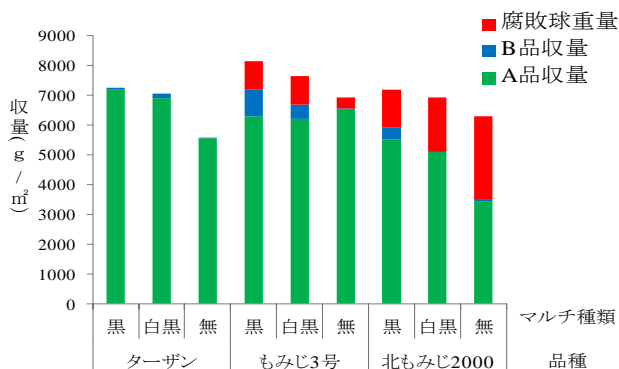


図1 秋まき(左図)と春まき(右図) (品種:ターザン)

図2 マルチの有無と種類と収量の関係

(浅井 西畑, 2013. 富山県におけるタマネギ春まき夏どり栽培の可能性. 園学雑 12 別 1:134)

(浅井 西畑, 2013. 富山県における春まき夏どり栽培におけるマルチの有無及び種類が生育に及ぼす影響. 園学雑 12 別 2:144)

(2) 機械栽培の適応性

- ・機械定植精度を調査したところ、定植精度は97%と高く機械定植に問題はなかった(図3)。
- ・黒マルチ栽培で既存の機械を利用した収穫は、可能であった(図4)。



図3 春まきタマネギ機械定植実証

図4 春まきタマネギ機械収穫実証

2. 成果の活用

品種や栽培方法の組み合わせによって生育や収量が大きく異なるので、作型の確立と現地への普及に向けて、富山県に適した栽培技術について現在も試験を継続しており、現地実証も行っています。

本研究は、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」により実施した